

【分配金のお知らせ】

2015年12月28日

野村アセットマネジメント株式会社

## 「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の 2015年12月25日決算の分配金について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の2015年12月25日決算の分配金を以下の通り決定しましたので、ご案内いたします。

今回の決算において、米国ハイ・イールド債市場および新興国通貨の動向と、それに伴う基準価額水準の下落傾向等を勘案し、「メキシコペソコース」の分配金を150円から100円に引き下げることにいたしました。一方、その他のコースにつきましては、前回決算の分配金額からの変更はございません。

「メキシコペソコース」の分配金引き下げに関する詳細な説明は、次ページ以降をご参照ください。

### 【分配金】(1万口当たり、課税前)

ファンド (毎月分配型)	円コース	豪ドルコース	ニュージーランド ドルコース	ブラジル リアルコース	南アフリカ ランドコース	メキシコ ペソコース
分配金額	50円	90円	160円	80円	90円	100円
(前回決算)	(50円)	(90円)	(160円)	(80円)	(90円)	(150円)
決算日の基準価額	8,829円	10,904円	10,276円	5,017円	5,138円	7,656円
決算日の基準価額 (分配金込み)	14,356円	19,014円	21,042円	14,020円	13,159円	17,470円
(前回決算)	(14,597円)	(19,496円)	(20,758円)	(15,258円)	(14,780円)	(18,907円)
分配金額設定来累計	5,110円	6,750円	8,360円	9,030円	8,010円	8,600円

\* 設定日:2009年9月9日、前回決算:2015年11月25日

\* 基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

### 【「毎月分配型」の分配の方針】

原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。

なお、毎年2月および8月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

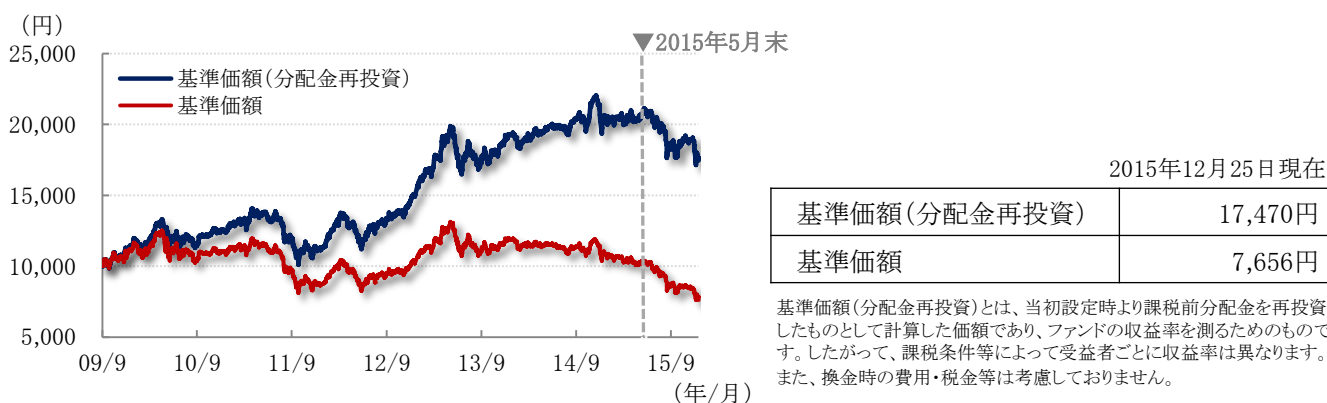
【分配金引き下げの背景】

今回の分配金につきまして、米国ハイ・イールド債市場および新興国通貨の動向と、それに伴う基準価額水準の下落傾向等を勘案し、「メキシコペソコース(毎月分配型)」の1万口当たりの分配金(課税前)を150円から100円に引き下げました。

当コースの基準価額は、2014年12月頃より軟調な動きとなり、特に2015年6月頃以降は米国ハイ・イールド債やメキシコペソ(対円)の為替レートなどの投資環境(後述)を背景に下げ足を速めました。2015年12月25日現在、基準価額は7,656円となり、年初来の騰落率は-29.7%、基準価額(分配金再投資)の騰落率は-15.3%でした。

2015年前半に概ね横ばいで推移したメキシコペソ(対円)は、同年6月頃より原油などの商品市況の悪化や中国を巡る世界景気減速懸念などによる新興国からの資金流出などにより下落基調となりました。

< 「メキシコペソコース(毎月分配型)」基準価額の推移 期間:2009年9月9日(設定日)~2015年12月25日、日次 >



上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

< メキシコペソの為替レート(対円)の推移 期間:2009年9月末~2015年11月末、月次 >



(出所)ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## 【投資環境と今後の見通し】

## 米国ハイ・イールド債について

ファンドが設定された2009年9月9日の同月末以降、米国ハイ・イールド債のパフォーマンスは概ね堅調に推移しましたが、2015年6月以降は軟調となっています。

2015年6月以降、米国ハイ・イールド債市場は、原油などの商品価格下落や中国を巡る世界景気減速懸念などを背景に市場環境がリスク回避的になったことなどから、金属・鉱山やエネルギーセクターが主導する形で下落となりました。これは、2008年の金融危機、2011年の大手格付会社による米国国債の格下げ(AAA→AA+)以来のパフォーマンスの悪化となりました。2015年10月には一旦持ち直したものの、11月に入り年内利上げの可能性が高まると、商品市況の軟調に連れて下落しました。

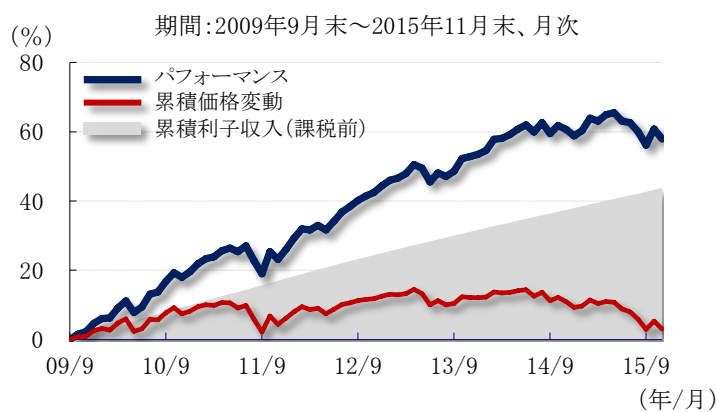
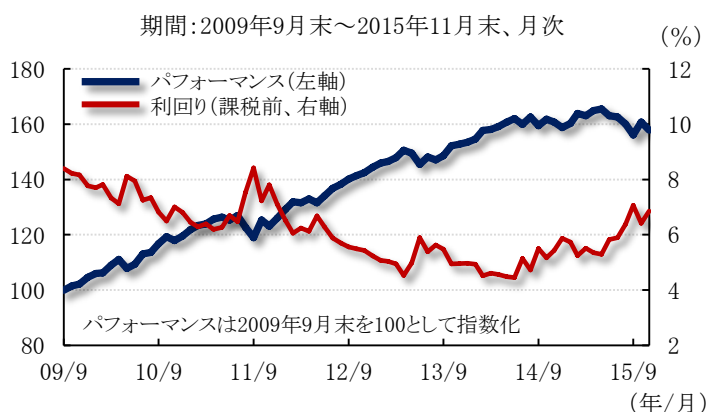
足元のスプレッド拡大をみると、主にエネルギーセクターに起因するデフォルト率上昇の可能性は既に市場に織り込まれていると考えられます。

ファンドの運用の一部を委託している「ピムコジャパンリミテッド」は、今後の米国経済について、労働市場の着実な回復を土台とする消費主導の、自律的な経済成長が進むとみており、足元低い水準で推移している原油価格は、先進国経済にとって家計の購買力向上を通じてプラス方向に作用すると考えています。また、2015年12月16日、FRB(米連邦準備制度理事会)はFOMC(米連邦公開市場委員会)で0.25%の利上げを決定しましたが、今後の利上げのペースについては、あくまでも国内景気の回復を配慮した緩やかなものになると予想しています。

米国ハイ・イールド企業の業績・財務は改善基調が目立ち、デフォルト(債務不履行)率も低水準(2.4%、2015年11月末現在)で推移しています。また、借入コストの低下と業績安定化の中で支払利息に対する支払い能力が過去最高の状態であるなど、米国ハイ・イールド債を取り巻く環境は概ね良好であると考えられます。

## 米国ハイ・イールド債(BB～B格)のパフォーマンスと利回りの推移

## 米国ハイ・イールド債(BB～B格)のパフォーマンスの内訳



米国ハイ・イールド債(BB～B格):BofA・メルリンチ・US ハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-B レイティド・コンストレインド・インデックス、米ドル建て

上グラフの「パフォーマンスの内訳」は「累積利子収入」と「累積価格変動」からなり、「パフォーマンス」の変動要因を示したものです。各内訳は、2009年9月末を起点に米国ハイ・イールド債指数の月間変化率を利子収入と価格変動に分解し、それぞれを月次ベースで累積したものです。複数期間の「パフォーマンスの内訳」を累積する過程で差異が生じる為、「累積利子収入」と「累積価格変動」を足し合わせたものは、「パフォーマンス」にはなりません。

(出所)ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

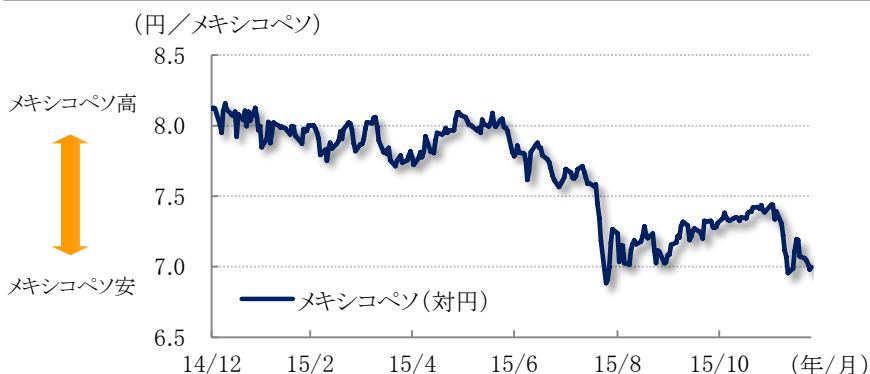
BofA・メルリンチ・US ハイ・イールド・キャッシュ・ペイ・BB-Bレイティド・コンストレインド・インデックスは、バンクオブアメリカ・メルリンチが算出する指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はバンクオブアメリカ・メルリンチに帰属しております。

メキシコペソについて

2015年6月下旬から、メキシコペソ(対円)の下落傾向が強まりました。8月下旬からはやや回復したものの、12月に入ると再び下げ幅を拡大しました。メキシコペソ下落の背景としては、以下のような要因があげられます。

- ・米国の金融政策の正常化、資源価格の下落、中国を巡る不透明感の高まり(景気、株価、為替)等の外的要因を背景に新興国からの資本流出圧力が続いていること
- ・世界的な原油の供給過剰などを背景とした原油価格の下落が、石油輸出国であるメキシコの輸出に影響を及ぼし、同国の経常赤字の拡大が懸念されたこと

メキシコペソの為替レート(対円)の推移 期間:2014年12月31日～2015年12月25日、日次

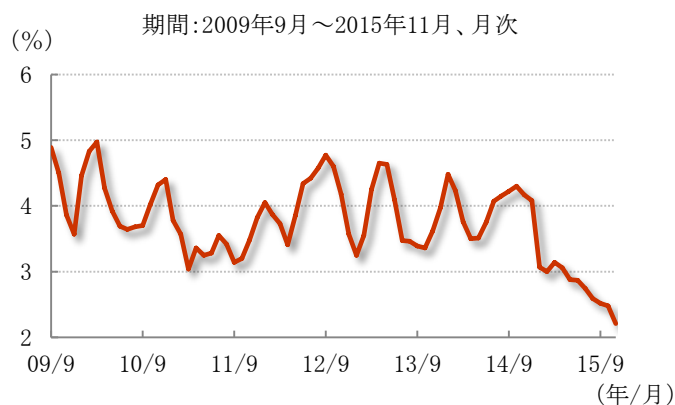


(出所)ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

メキシコ国内では、引き続き足元の原油価格の低迷が同国の経済成長の下押し圧力になることに留意する必要がありますが、同国の経常収支やインフレ率は他の新興国と比較すると相対的に安定しており、政策対応の余地が十分残されている点や、現在も緩やかな経済成長が確認できる点を評価しています。

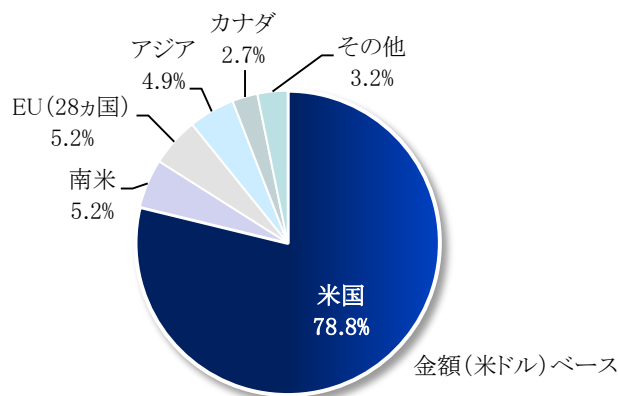
2015年12月17日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合において、オフィシャル・オーバーナイト・レートを0.25%引き上げました。同中銀が米国の利上げによるメキシコペソの下落やこれに伴うインフレ率の上昇を警戒していることによる引き上げですが、メキシコ経済は、内需の回復が顕著であり、インフレ率が相対的に健全な水準にあります。さらに、米国の利上げが米国経済の回復を伴うものであれば、米国向け輸出が総輸出の約8割を占めるメキシコ経済にも追い風となります。このような状況のもと、メキシコペソは中長期的に他の新興国・資源国通貨に比べて堅調に推移することが期待されます。

メキシコの消費者物価指数(前年同月比)の推移



(出所)ブルームバーグデータ、日本貿易振興機構(JETRO)データより野村アセットマネジメント作成

メキシコの輸出相手国構成比(2013年)



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

《ファンドの特色》

- 「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」は、投資する外国投資信託において為替取引手法の異なる6つのコース(円コース、豪ドルコース、ニュージーランドドルコース、ブラジルリアルコース、南アフリカランドコース、メキシコペソコース(各コースには「毎月分配型」、「年2回決算型」があります。))およびマネープールファンド(年2回決算型)の13本のファンドから構成されています。
- 各コース(マネープールファンドを除く6つのコースを総称して「各コース」といいます。)
  - ◆ 高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。
  - ◆ 米ドル建ての高利回り事業債(ハイ・イールド・ボンド)を実質的な主要投資対象\*とします。  
\*「実質的な主要投資対象」とは、外国投資信託や「野村マネーポートフォリオマザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
  - ◆ 円建ての外国投資信託「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド\*」および国内投資信託「野村マネーポートフォリオマザーファンド」を投資対象とします。  
\*「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンドA」および「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンドB」を総称して「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」といいます。
  - ・「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」には、為替取引手法の異なる6つのクラスがあります。

各コース	各コースが投資対象とする外国投資信託の為替取引手法
円コース(毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対円で為替ヘッジを行ないます。
豪ドルコース(毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、豪ドルを買う為替取引を行ないます。
ニュージーランドドルコース(毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、ニュージーランドドルを買う為替取引を行ないます。
ブラジルリアルコース(毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、ブラジルリアルを買う為替取引を行ないます。
南アフリカランドコース(毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、南アフリカランドを買う為替取引を行ないます。
メキシコペソコース(毎月分配型) / (年2回決算型)	米ドル建て資産について、原則として米ドルを売り、メキシコペソを買う為替取引を行ないます。

- ◆ 通常の場合においては、「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」への投資を中心としますが、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。  
\*通常の場合においては、「PIMCO USハイ・イールド・ストラテジー・ファンド」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。
- ◆ 運用にあたっては、ピムコジャパンリミテッドに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- ◆ 各コースはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- マネープールファンド
  - ◆ 安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。
  - ◆ 円建ての短期有価証券を実質的な主要投資対象\*とします。  
\*「実質的な主要投資対象」とは、「野村マネーポートフォリオマザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
  - ◆ 「野村マネーポートフォリオマザーファンド」への投資を通じて、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。
  - ◆ ファンドは「野村マネーポートフォリオマザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 「野村PIMCO・米国ハイ・イールド債券投信(通貨選択型)」を構成する「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングができます。
- 分配の方針
  - ◆ 毎月分配型：原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。なお、毎年2月および8月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。  
\*「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。
  - ◆ 年2回決算型：原則、毎年2月および8月の25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。  
\*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

《分配金に関する留意点》 ● 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。● ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。● 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

《投資リスク》

各ファンド(「マネープールファンド(年2回決算型)」を除く)は、投資信託証券への投資を通じて、債券等に実質的に投資する効果を有しますので、金利変動等による当該債券の価格下落や、当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

「マネープールファンド(年2回決算型)」は、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成31年8月26日まで(平成21年9月9日設定)
- 決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。  
【年2回決算型】年2回の決算時(原則、2月および8月の25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)または1万円以上1円単位  
なお、「マネープールファンド」は、「年2回決算型」の他のファンドからのスイッチング以外によるご購入はできません。  
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 【各コース】  
ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 【マネープールファンド】  
ご換金申込日の翌営業日の基準価額  
「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングが可能です。  
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 各コースは、販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。  
・ニューヨーク証券取引所  
・ブラジル商品先物取引所(ブラジルリアルコースのみ)  
・サンパウロの銀行(ブラジルリアルコースのみ)
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2015年12月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、「マネープールファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	【各コース】 ファンドの純資産総額に年1.6524%(税抜年1.53%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 【マネープールファンド】 ファンドの純資産総額に年0.594%(税抜年0.55%)以内(平成27年11月13日現在年0.0216%(税抜年0.02%))の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	【各コース】 1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 【マネープールファンド】 ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◆お申込みは

野村証券

商号:野村証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会:日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/  
一般社団法人金融先物取引業協会/  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎0120-753104  
(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★  
http://www.nomura-am.co.jp/



★携帯サイト★  
http://www.nomura-am.co.jp/mobile/